



本校の歴史その7:「理事長体制」

No.16 木村理事長・学院長 平成23年度公式メッセージ
(平成 23 年 5 月 22 日アップ)



本校の歴史その7
「理事長体制」

昭和38年当時の理事体制
前列中央が寶來理事長



寶來正信理事長

- ・ 大阪府との密接な関係はすでにブログ「本校の歴史その5大阪府との関係」において私は詳述した。相当大きな関与と支援があって本校は順調に歴史を刻み始めた。しかしどうも設置者たる大阪国学院の存在感が薄いようにこのブログを読まれた方は感じる筈である。確かにそのように感じられても不思議ではない。
- ・ しかし実際は影に隠れて大阪国学院の神職の方々には「血の滲む様な努力」をされていたのである。ただ学校と言うのは今でもそうだがこの時代も「校務を運営する校長以下教職員が主役の組織」であって、設立の母体組織は表立って出てこないものである。
- ・ 又「神社界の気風」みたいなものを理解しなければならないだろう。特に「神職の気風」については私がこの学校に着任して以来感じているのだが、神社の宮司様は「目立とうとしない」「争いは好まない」「一步後ろに控える」、しかし一方では「義理人情には人一倍敏感で果たす」ような気風が強い。
- ・ 神社神道の世界は日本の精神、歴史的バックボーンであり、あえて「神のみこと持ち」として目立つことは避けてきたと思えてならないのである。それが浪速中学校の運営にも少なからず影響したと考えるのは私だけであろうか。
- ・ 基本的に浪速中学校は大阪府神社界の有している学校であるが、校務運営は完全に校長以下に「丸投げ」して来たと言っては幾分憚りがあるが必ずしも間違っていない。そこが「オーナー系私学」と完全に違っている点であり校長の力量で土台が揺るぎかねない危険性はある。
- ・ 大正12年の創立以来、昭和20年頃まで実に二十数年、歴代の大阪国学院院長は大阪府の「社寺行政主管の内務、総務、学務各部長」が兼任してきた経緯があった。副院長は社寺主管課長が就任した。加えて「総裁」という職位まで設けて大阪府知事はその任に当たってきたことは既に書いた。
- ・ 即ちトップと実質的な学校運営は社寺主管課長が担ってきたのである。教育課程も教材選択も、教員配置も確かに神社界の神職の人々に任せていたら一向に学校の設立は進まなかつたろう。学校の建設には「技術」が要るのである。
- ・ しかしそれも遂に敗戦によって大きく変わった。年表では昭和20年とあるから間違いなく終戦後神社制度の変革に伴って新たな枠組みが作られたのである。即ち組織変更を行い、院長、副院長制度を廃して「理事長制度」となった。
- ・ 余談ではあるが「理事報酬は支給しない」として大阪国学院浪速中学校は創立以来スタートした。これは有名な話である。従って今日まで本校の理事者の報酬はない。世の中にこのような私立学校はあるだろうか。
- ・ 当に神職らしい物事の考え方であると私は感服した。しかし一方これでは責任ある理事職として業務の責任はどなたの思いもあって私は就任と同時にこの制度を改めようとしたが結果的に受け入れられず現在に至っている。強いご辞退である。
- ・ ただ私自身は神社界とは無縁の者であり、外部招聘の理事長であるから無報酬ではない。無報酬なら来る訳がない。当然の事であり、「適切な報酬に見合う仕事を遂行し必ず結果を出す」ということが民間人の私の責務と考え今日まで来ている。
- ・ ただ理事・評議員の各位には報酬はないが年に5回程度はある理事会・評議員会の出席においては「費用弁償」として「日当」を出すことだけは認めて頂いた。そしてご退任の時にも些少で恥ずかしいのだが「記念品」を贈呈することとした。それも私の代からでありそれまでは一切そのようなものはなかったのである。

- ・ とにかく大阪府からの直接的運営から離れて本校は昭和20年敗戦と同時に、言ってみれば「大阪府から独立」したとも言える。国学院評議員会において理事を選出しその互選によって理事長が決定されたのである。
- ・ 初代理事長は「寶來正宣」先生と言って後のブログで詳述する名実ともに創立時代から戦前戦後を眺めて来られた「大理事長」であった。実に昭和21年から昭和46年現役でお亡くなりになるまで理事長職を25年間も務められた。尚この寶來理事長のお孫さんが私の前任の理事長であった寶來正彦氏である。
- ・ 設立当時の国学院役員は以下の通りであった。(敬称略)
 - 院長:平賀周(大阪府内務部長)、副院長:児玉政介(大阪府地方課長)
 - 理事:武田充忠、松尾幾太郎、浅香千速、渡辺醇、長谷川熊次郎、奥野勝二
- ・ 昭和38年当時、即ち「浪速高校40年史」には以下の国学院体制であった。
 - 理事長:寶來正信、理事:校長平石芳太郎、園 克己、別所貫一、
 - それに下のお名前が分からないのだが山畑、藪野、露野、宮脇とあった。
- ・ 昭和48年当時、即ち「50年史」における理事体制は以下のようであった。
 - 理事長:園 克己、理事:校長浅田光男、高松忠清、長谷川義高、寺井種茂、
 - 加藤知衛、田島 瞳、菅尾竜雄
- ・ 昭和58年当時即ち「60年史」における理事体制
 - 理事長:足立信治、理事:寺井種茂、校長一ノ瀬博、加藤知衛、田島瞳、江端市松
 - 岡市正、津江孝夫、玉田義美、丸岡隆二
- ・ 平成5年当時即ち「70年史」における理事体制
 - 理事長:玉田義美、理事:岡一正、一ノ瀬博(校長)、加藤知衛、江端市松、友田讓
 - 若宮房又、若宮春典、寺井種伯
- ・ 平成15年当時即ち「80年史」における理事体制
 - 理事長:寶來正彦、理事:寺井種伯、南坊城充興、大戸道彦、加藤知衛、森山一正
 - 平岡公仲、畦地道俊、津江明宏、岡市正規、村上晃美
- ・ 平成23年現在 恐らく90年史は私の手で
 - 理事長:木村智彦、理事:寺井種伯、南坊城充興、森山一正、岡市正規、藤江正謹、
 - 小西靖弘
- ・ 戦後の話が続いたので話を原点に戻そう。学校が出来たのが大正12年で卒業生を初めて出したのが昭和3年であった。経営的にも苦労があったのだろうと思うが昭和6年5月になって「浪速中学校後援会」が組織されている。後援会組織があると言うのは当時としては珍しいのではないか。その背景を探ってみた。
- ・ 初代会長は石切神社宮司の木積一雄氏、副会長が今宮戎神社宮司の津江正規氏、会計幹事が福島天満宮宮司の寶來正信氏(後の実質的初代理事長)と記録に残っているがこの組織は40年史の文章によれば「校運の発展とともに解消」したとある。
- ・ この後援会について前述した寶來正信理事長が40年史に「回想」として一文を寄せられている。「創立後の苦難時代」として当時の状況を次のように回想されている。少し長くなるが転記したい。
- ・ “本校設立者財団法人大阪国学院は当時の社会情勢を憂えて民族精神を基調とする国民教育の必要性を痛感し、一面甚だしい入学難時代であったのでその緩和と言う社会奉仕の一端にもと浪速中学校の設立を企画したのである。

そこで資金は広く世の篤志家に仰ぐ方針で敷地は各所を物色の末、依羅村から寄付される依羅池(1町2反12歩)を埋め立て、差し当たりの工事費は財団の基金を一次流用して賄うこととし、設立認可を得るとともに仮校舎で発足、授業を開始するというように頓頓と運んだのであった。

然しその後は予定の資金は計画通りに集まらない。工事は進めねばならぬ。結局資金面に行き詰って抜き差しならぬ破目に追い込まれた。背に腹は変えられず無理な金策が続けられ最後は神社の基本金までも借り入れたのであるが、その整理は永く理事者の頭痛の種となって残った。

かくて昭和6年頃の本校は大きな負債を荷おうた上に在校生は少なく最も悲況の時代で一本の煙草、一杯の酒を節約して神職大会に建議案を出し後援会を造ったのも子の年であった。”

- ・ 以上のような経済的困窮から大阪府神社界は浪速中学校後援会が出来たものであり、我々今の浪速に生きるものとしてはこのような時代の中で如何に多くの人々が本校存続のために辛酸をなめて努力されてきたのか忘れてはならない。